

# NJ素流協 News

平成29年4月10日 第147号

平成29年4月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6 (農林会館5階)  
 TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>

## 平成28年度林業経営講座(後期)を開催

当組合は3月9～10日の2日間にわたり、盛岡市及び秋田県大仙市・仙北市において林業経営講座(後期)を開催し、組合員及びその後継者、従業員等15名が出席した。受講者は別表のとおり。

### ▽1日目(3月9日)

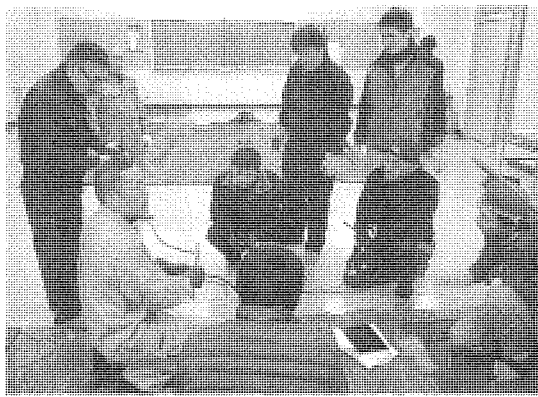
#### 「ワイヤロープ・繊維ロープの継ぎ方」(室内研修)

1日目は盛岡市の岩手県営球場研修室において、架線作業で必須となるワイヤロープ・繊維ロープの継ぎ

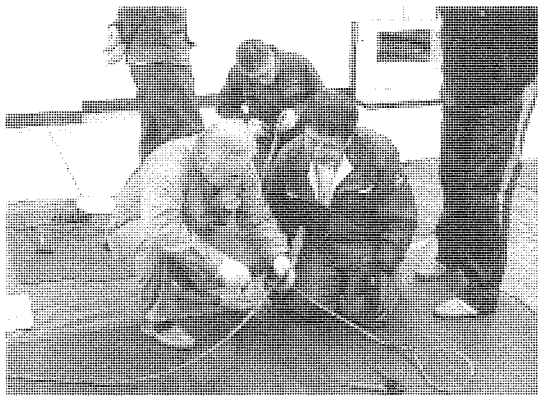
方について研修を行った。講師は当組合研修ではおなじみの(株)ふるさと木材代表取締役の畠山辰也氏、西間林業代表の西間薫氏が務めた。

ワイヤロープの加工では、ワイヤロープにアイ(輪)を作るアイスパライス(巻差し・変形割差し)と2本のワイヤロープをつなぐショートスパライスについて、繊維ロープの加工ではアイスパライスについて実習を行った。

受講者の多くが初心者であったが、



畠山氏の説明を聞く受講生



ベテラン西間氏による指導



繊維ロープの加工

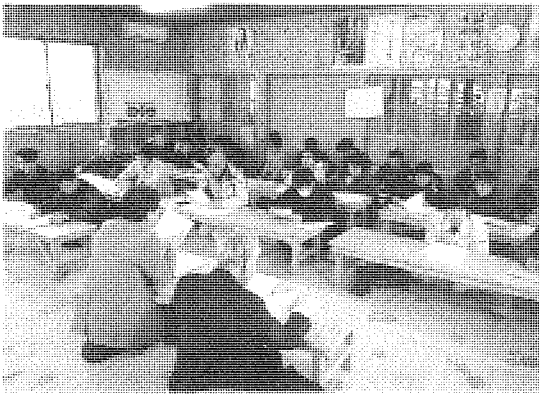
講師の指導を受けながら集中して作業を進めていた。

### ▽2日目(3月10日)

#### 「小径原木の有利な仕分けと販売法、杭等加工工場の見学」(現地研修)

2日目は秋田県大仙市の(株)門脇木材協和工場及び仙北市の本社工場において、小径木の仕分け・販売と加工について研修を行った。

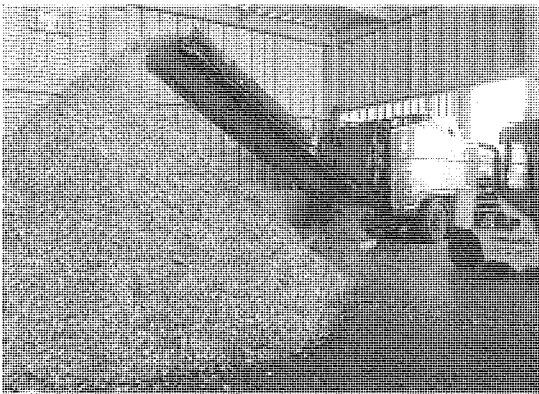
同社は平成2年に素材生産業者として創立され、スギを中心としたJAS認定構造材・羽柄材、土木用資材等の生産を行うほか、2000haの自社所有林を有し、植林から伐採まで林業全般を手掛けている。



門脇木材での室内講義の様子

研修に当たり代表取締役の門脇桂孝氏は、「山に捨てられていた短尺材をなんとか利用できないか、という山主さんの要望に応え、6尺の野地板を作ったのが製材を始めたきっかけである。木は捨てるどころ無く使いたい、という思いから、小径材の土木用資材への活用や、バイオマス燃料用チップの供給にも取り組んでいる。林業で地域を活性化し、北東北から発信できるように取組みを行っていきたい」と挨拶した。

続いて当組合鈴木理事長、野田営業企画課長、吉田経営企画課長が小径材の仕分けによる有利な販売につ



移動式チップパーによるチップ製造の様子

いて説明した。

室内講義の後、協和工場長高橋聡氏と業務課長窪田哲夫氏の案内により、協和工場を見学した。

協和工場では乾燥材をはじめとする一般製材が行われており、丸太の自動選別機の導入により、小径材(8~16cm)は仕分けや検知を行わず納入することが可能となっている。

選別機では最小径、最大径、曲がり、矢高等が自動的に計測され、直材は製材・土木用に、曲がり材はバイオマス用に、等の仕分けが行われている。工場敷地内のチップ製造施設では、移動式チップパーによりバイ

平成28年度 林業経営講座(後期)受講者

(組合員番号順・敬称略)

No.	所 属	役 職 名	氏 名	9日	10日
1	荒川商事(有)		荒 川 吉 広	○	○
2	(株)昭林	宮古営業所	中 村 仁 司	○	○
3		宮古営業所	畠 山 祐 樹	○	○
4	(株)イワリン	生産管理課長	永 島 良 治	—	○
5	(株)ふるさと木材	代表取締役	畠 山 辰 也	○	○
6	(株)小野寺林業		三 浦 明 人	○	○
7			眞 崎 貴 晃	—	○
8	小野寺 隆治		小野寺 俊 祐	○	○
9	(有)川又林業	代表取締役	川 又 正 人	—	○
10		森林整備課	川 又 星 児	○	○
11		森林整備課	角 館 秀 和	○	○
12	(有)道又林業		野 邑 真 路	○	○
13	(株)小友木材店	工場長代理	奥 友 賢 治	○	○
14	(株)大川運送	代表取締役	佐々木 豊 秀	○	○
15		取 締 役	佐々木 豊 志	—	○

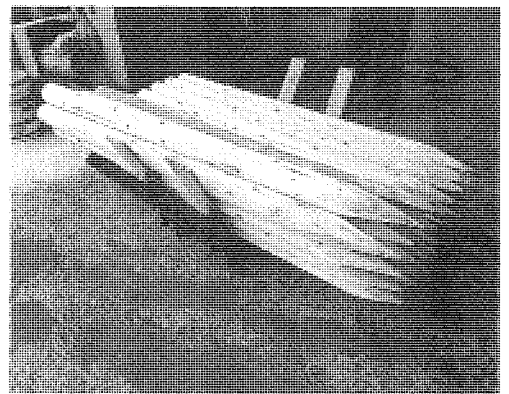
※(株)ふるさと木材 畠山氏は9日は講師として参加

オマス燃料用チップの製造が行われていた。

次に仙北市に移動し、営業部長田畑博人氏の案内により、本社工場を見学した。ここでは、間伐材等の小径木が円柱加工され、土木用杭や治山工事に使われる木製型枠パネル等の製造が行われている。端材は薪に加工され、まさに捨てる場所の無い利用が行われていた。

お忙しい中快く講師をお引き受け下さった皆様と研修にご協力いただいた(株)門脇木材様に、厚く感謝申した。

上げます。林業経営講座は今後も継続して開催する予定ですので、皆様の参加をお待ちしております。



土木用杭材(本社工場)

NJ素流協林業講演会  
**薪ビジネスの  
 今後の展開**  
 (その2)

当組合は2月1日、林業講演会「薪ビジネスの今後の展開」を開催し、3名の講師による講演が行われた。前号に続き講演の概要をご紹介します。

◇講演3

「薪ビジネスの今後のキーワード」

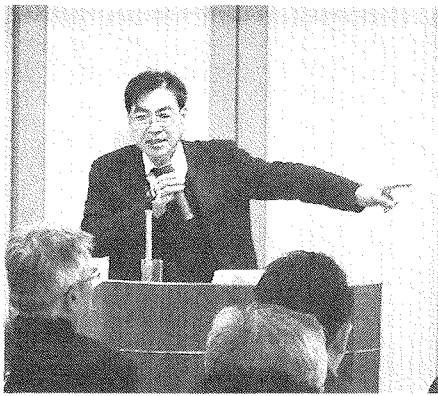
〈講師〉

ノースジャパン素材流通協同組合

理事長 鈴木 信哉

1 経済性

○家計における燃料代



講演する鈴木理事長

総務省の家計調査によると、平成26

年の家計におけるガスの支出額の全国

平均は6万8510円、灯油は2万8

61円となっている。灯油代はガス代

の3分の1程度であり、家計上重要な

問題ではないだろう、というのが都市

部の見方である。しかし全国の都市別

のデータを見ると、灯油代の支出額が

多いエリアがあることが分かる。北海

道、東北、甲信越では灯油代が全国平

均を上回り、青森市、札幌市、秋田市

では灯油代が8〜10万円とガス代より

はるかに高い。これだけ消費量が違う

ということは、暖房用燃料としての薪

の市場規模は非常に大きいということ

である。市場規模を全国平均で考えず、

地域レベルで理解する必要がある。

○他の燃料との経済比較

薪ストーブと灯油ファンヒーターを

比較すると、薪ストーブは初期投資に

100万円ほどかかるが、家屋全体を

暖め、輻射熱で朝まで暖かい等の特徴

がある。特に東北で増えている理由の

一つに、電源不要、ということがある。

東日本大震災で電気が止まり、ファン

ヒーターが全く機能しないことを体験

して、薪ストーブの評価が高くなって

きている。

一定の条件の元で石油代と薪代の経

済比較を行うと、薪の方が得な場合も

多い。自分で原木を伐った場合、絶対

に薪代の方が安い。ただ、薪ストーブ

購入時は「まかせろ」と言っていた親

父も、3年くらいすると「薪買ってき

たら」と言うようになるのがよくある

パターンである。このようなお客さん

も大事にした方がよい。

灯油価格の推移を見ると、円安もあ

り平成以降徐々に高くなってきている。

灯油が使われるのは飛行機の燃料と暖

房のみであり、灯油価格は石油精製業

界においては重要な問題ではないが、

木材業界はこの流れを理解しなければ

○薪生産の労働力合理性

しかし薪生産では給料を稼げないだ

ろう、と思われるかもしれない。農業

を営んでいる人は、農業の作業が終わ

る時期がちょうど薪生産に適した時期

となり、農業期間が薪の乾燥期間とな

る。よって農業と林業との複合経営で

薪を作ると、労働力配分は非常にうま

くいく。

素材生産業の場合は、雨の時に薪生

産を行うことで、作業がうまく回る。

土場においても、毎日決まった量の丸

太が入るわけではないので、空いた時

間に薪生産を行うなど、労働力配分を

工夫することで薪生産のコストは下が

る。

○土地代、薪ボイラーの経済性

薪を乾燥するための土場の経費につ

いては、土地代の安い地方には大きな

メリットがあると考えている。工場跡

地などで屋根だけあつて、舗装されて

いるところが最適である。

また薪ボイラーを導入した入浴施設

では、重油と比べ年間2500万円程

費が減った、という例もある。

2 再確認

○オガライトとは何だったのか

木平さんの講演にもあったように、

針葉樹薪と広葉樹薪の熱量は同じであ

る。しかし重いものの方が熱量はある

わけだが、これを解決したのが、日本

木材業界の発明の一つとされるオガラ

イト(文化薪)である。木材に含まれ

るリグニンが加熱すると接着剤のよう

な性質を持つが、オガライトはオガ粉を加熱・圧縮して成型したもので、スギでもナラ薪のように密度を高くすることができ、オガライトを炭焼きするとオガ炭となり、白炭として流通している。

### ○三丁目の夕日からの脱却

漫画「三丁目の夕日」では大晦日に各家の煙突から煙が出ているが、あれは何かというと、不完全燃焼のかたまりである。日本人はエネルギーをどれだけ無駄にしてきたか。そこから脱却しなければならない。

### ○薪の多用途

薪の用途については、家庭の暖房用、ピザ屋・パン屋等の業務用のほか、陶芸用（アカマツ薪）、かつお節の乾燥用など色々ある。薪を一つのものとして捉えず、色々な需要に対応できるように考えなければならぬ。

### 3 誤解

#### ○戦前の薪需要

戦後の木材需給の推移を見ると、木材需要は戦後に伸びた、と認識されているが、大正時代の木材統計によると、日本の木材需要量は既に1億mあった。

このうち燃料用材（薪炭材）が8千万m<sup>3</sup>で8割を占める。薪炭材の内訳は薪65%、炭35%で薪の方が多く、樹種別では広葉樹77%、針葉樹23%となっている。用途別では家庭用が75%、産業用21%、公共設備用4%と幅広くある。

この時代の薪炭業の産業規模は非常に大きく、現在の石油、ガス産業の全てと電気産業の一部を合わせたものと同等と考えられる。

#### ○世界と日本の薪需要

先進国は薪を使っていない、との誤解もある。各国の人口当たり薪生産量を見ると、日本はほぼゼロなのに対し、ヨーロッパや北米などの先進諸国では多くの薪が生産されていることが分かる。同様に、主要国の中で日本の木材消費量は少なく、その中でも特に薪炭材利用割合は低い。

昭和25年のGNPに占める薪炭の割合は13.19%で、現在のGNPを500兆円とすると66兆円に相当する。当時はこれだけの収入が山村にあったというのである。

また木材の需要量の推移を見ると、昭和62年を境に急激に増加しており、

確かにテレビを見ると炭火焼ばかり紹介されている。残念ながら増えたのは輸入木炭であるが、需要量としては昭和40年代の水準にまで回復しており、炭問屋も多く存在している。

#### ○日本の統計の不真正

しかし、例えば平成26年の都道府県別薪生産量のデータを見ると、青森、岩手はデータなし、宮城は1m<sup>3</sup>などとなっている。行政で実態を把握していないことが分かる。日本の薪炭産業を非常に小さく見せているのは、統計の問題だとも言える。

### 4 更には

#### ○ナポリピッツアの定義

ピザのマーケットは右肩上がりで成長している。その中でも有名なナポリピッツアの定義の中に、「焼成は485℃にも達する専用の薪窯で行わなければならない。」とあり、使用する薪の種類も規定されている。

#### ○薪の価格

2mのチップ用原木を玉切りすると値段が倍になり、これを割ると更に倍になる。薪の価格はサクラ√ナラ√広葉樹混合√針葉樹の順で高い。かつて

の薪のJAS規格では、堅（ナラ等）、雑（広葉樹混合）、松と3種類に分かれている。長さには1尺2寸（尺2:36cm）、1尺6寸（尺6:48cm）などの規格があった。この長さの違いは、東日本では尺2、中京から西では尺6が入る風呂用薪ボイラーが使われていたことによる。ちなみにこれは1束の大きさが積むと、ちょうど国鉄のコンテナが一杯になる寸法である。

薪は束、層積m<sup>3</sup>、m<sup>3</sup>、t、棚等様々な単位で流通している。小売価格を1束700円とすると、1m<sup>3</sup>当たり5万円となる。1万円の原木を玉切りすると2万円、割って4万円、流通経費を加えて5万円となる。単位換算をきちんと行うことが今後の薪炭業において重要になる。

### 5 まとめ

薪ビジネスにおいては、市場規模をエリア別にきちんと把握すること、灯油など他の資源と純粋に比較することが非常に大事である。

山の木を活かすために、違う業界との接点をどのように捉えるのか、ということが極めて重要である。

## トピックス

第4回国有林材供給  
調整検討委員会に出席

平成28年度第4回東北森林管理局  
国有林材供給調整検討委員会が2月  
23日、秋田市において開催され、8  
名の委員により協議が行われた。当  
組合から高橋常務理事が委員として  
出席した。

## ▽委員会の検討結果

現時点において国有林材の供給調  
整を実施する必要はなく、引き続き  
価格及び需要動向の注視に努める。

## ▽主な意見

## 1 国産材需給

①製材用スギ原木は依然引き合いが  
強い。特に3・00m、3・65mと母  
屋、桁用の小丸太については需要に  
応じ切れていない。

②宮城県、岩手県では災害公営住宅  
建築による需要と非住宅の物件があ  
り、プレカットの需要が続いている  
が、他の地域では仕事が減少しつつ  
あるプレカット工場も見られる。

③スギ集成管柱の需要は依然として  
高く、スギ原木の調達量は増えてお  
り供給も安定している。しかし、製  
品価格が据え置きのため、原木やラ  
ミナの価格も横ばいで推移している。

④合板については、製品出荷、素材  
入荷とも堅調に推移。カラマツ原木  
については不足傾向にある。

⑤チップ用原木は、製紙、繊維板等  
原料用チップと燃料用チップの競合  
によりますます価格が上昇し、原木  
に不足感が出ている。

## 2 他地域への輸送・輸出

青森県下北地域のスギ低質材の原  
木輸出については、春に向けて集荷  
中であり、中国向けを予定している。

森林認証・ラベリング  
普及促進協議会に出席

いわて森林認証・ラベリング普及  
促進協議会（会長・岩手県森林組合  
連合会中崎和久代表理事会長）主催  
の平成28年度拡大協議会が3月9日、  
盛岡市において開催され、県、市町  
村、森林組合、林業事業体等の関係  
者約50名が出席した。同協議会は森

林認証材の普及促進等を目的として  
平成28年6月に設立され、県森連、  
N J素流協等が構成員となっている。  
概要は次のとおり。

## ▽28年度の取組み状況

28年度は、森林認証の取得に必要  
な事項の整理、現地指導会の開催、  
森林認証の認知度にかかるアンケー  
ト調査等の取組みが行われた。アン  
ケート調査では、森林認証の認知度  
は行政・林業関係者等では高いが、  
木材加工業や卸売業等では低いとい  
う結果が得られた。

## ▽SGEC森林認証について

日本での主な森林認証制度にはS  
GEC、FSCがあるが、今回はS  
GECに絞り、認証取得について整  
理した内容が事務局から報告された。

## ①FM認証（森林管理認証）

SGECでは認証対象森林の明示、  
生物多様性の保全等7つの基準・指  
標があるが、これらを満たすものと  
して、森林経営計画や市町村森林整  
備計画が活用できる。

②COC認証（加工・流通にかかる  
認証）

申請時に必要となる「COC管理  
計画」は①COC管理指針②COC  
管理体制③COC手順④関連事項⑤  
DDS（デューデリジェンス・シ  
ステム：非認証材を扱う場合のリス  
ク管理システム）規程、の5つの項  
目から成り、複数の事業体によるグ  
ループ認証の場合はグループ管理に  
かかる項目が追加される。

県森連で仮の申請書を作成したが、  
認証材と非認証材の分別・保管と管  
理体制の構築がクリアできれば、申  
請自体は難しくくない。

## ▽県内での取組み事例

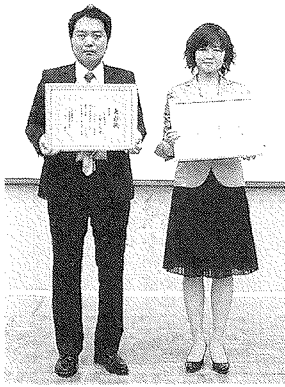
パネルディスカッションでは、28  
年6月にSGECのCOC認証を取  
得した（株）高吟製材所から事例報告が  
あり、①認証材の分別・保管場所を  
設置し看板で明示②責任者を定め管  
理③認証材の入出荷を記録し書類を  
保存、等の認証材管理体制の構築に  
ついて紹介された。

また釜石地方森林組合からは、釜  
石産材のブランド化を目指し、地域  
ぐるみで認証取得に取組んでいる事  
例が報告された。

**有丸大県北農林が  
最優秀賞を受賞**

地域けん引型林業経営体成果発表会（主催：岩手県）が3月9日、盛岡市において開催され、林業事業者等の関係者約80名が出席した。

5つの事業者による地域森林経営プランの取組み状況にかかる成果発表が行われ、安全対策のための人材育成をテーマに発表した有丸大県北農林（洋野町種市、NJ素流協組合員。発表者：大粒来宏美取締役、写真右）が最優秀賞を受賞した。働く人を守って会社を発展させ、地域に貢献する姿勢が高く評価された。優秀賞は、間伐の生産性向上について発表した浄安森林組合（二戸市浄法寺町、発表者：北館雅樹業務課長、写真左）が受賞した。



受賞おめでとうございます！

また、新たに策定された地域森林経営プランの発表では、(株)佐藤木材（奥州市衣川区、NJ素流協組合員）の佐藤一人専務取締役が、人材育成、再造林の推進、施業の集約化を目標に掲げた経営プランを発表した。

**広葉樹資源の現状と  
需給状況にかかる成  
果報告会に出席**

「多様な木材需要に対応するための需給動向調査」成果報告会（主催：アジア航測(株)）が3月9日、東京都江東区において開催され、当組合高橋常務理事が出席した。報告の概要は次のとおり。

▽「多様な木材需要に対応するための需給動向調査について」（報告者：アジア航測(株) 矢部三雄総括技師長、正プラス(株) 稲本正代表取締役）

・我が国の広葉樹資源の主な需要先はチップ工場等で、家具等のマテリアル利用においては主に輸入広葉樹材が利用されているが、北米・ロシア等の山火事、病虫害や円安による輸入価格の上昇等から供給が不安定

な状況となっており、代替材の確保が課題である。

・我が国の平成27年の広葉樹需要量は2931万1000m<sup>3</sup>のうち、3分の2がチップ用、3割が合板用で、製材用はわずか100万m<sup>3</sup>。供給は国産材が1割の223万6000m<sup>3</sup>で、その95%がチップ用、5%が合板・製材用である。

・国有林における広葉樹の伐採量は昭和45年度をピークに減少し、平成26年度の伐採量に占める広葉樹の比率は6%となっている。

・一方で国有林における広葉樹資源量は伐採量の減少により増加しており、平成27年度期首の蓄積は国有林総蓄積の43%を占める（民有林では25%）。

・国有林の広葉樹蓄積量5億5400万m<sup>3</sup>のうち、ブナが9700万m<sup>3</sup>と最も多く、ミズナラ5800万m<sup>3</sup>、ダケカンバ5200万m<sup>3</sup>と続いている。このうち利用可能資源量は3割4割となっている。

・広葉樹需要者には、国有林広葉樹材が安定的に供給されれば利用した

い、とするニーズが存在。

・マテリアル利用でできる素材もチップ用に向けられている現状を回避するためには、きめ細かに仕分ける素材生産請負システムの構築が必要。まずは人工林間伐の際生産される広葉樹材から始めてはどうか。

・国内資源の有効活用という点に着目し、今後の広葉樹の取扱いの検討を。

▽「マテリアル用国内広葉樹資源の需給実態について」（報告者：森林総合研究所 青井秀樹チーム長）

・国産広葉樹の用材（家具材、内装材等）は、チップ用原木に混じって生産されることが一般的。

・広葉樹の素材生産量（平成26年木材統計より）は、北海道が59万m<sup>3</sup>で最も多く、岩手県30万m<sup>3</sup>、鹿児島県16万m<sup>3</sup>と続き、主力は北海道、東北である。このうち数%が用材として原木市場に出品される。

・原木市場に持ち込まれた用材は、広葉樹を得意とする製材所、家具・内装材等製造者が主に購入。用材のうち特に価値の高いものは北海道旭

川市や岐阜県内の銘木市場に持ち込まれ高額単価で売買される。事実上、全国規模で流通している。

・需要者は、節、腐れ等が無いこと、製造過程で割れにくいこと等を要望しているが、いずれの用途においても原木・原材料の安定供給が大前提。

・外材から国産材にシフトするには、今以上に増産する必要がある。

・安定供給・増産のためには、伐採・集材の機械化と労働力の充実化が必須であり、広葉樹の価値を川上側にPRする必要がある。

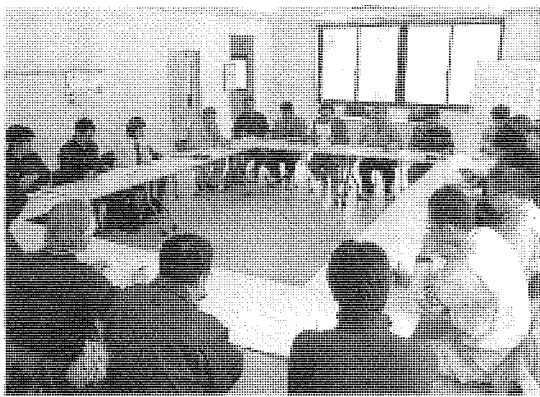
### \*管内供給先情報\*

1. (有)川井林業栗石工場にバイオマス用トラックスケールを来年度早期に設置予定。
2. 協和木材(株)新庄工場、4月下旬落成式を開催。新たにチップ工場設立計画も。
3. 八戸・久慈港、引き続き集荷を継続。

### ㈱ウツティかわいバイオマス発電所にかかる納材説明会を開催

当組合は、宮古地域木質バイオマス需給協議会及び㈱ウツティかわい区界発電所への原木供給にかかる打合せ会議を3月14日、同発電所において開催し、県の宮古農林振興センター、宮古市、組合員等の関係者約20名が出席した。

バイオマス需給協議会では、区界発電所における原木需給状況について協議が行われ、原木供給にかかる打合せ会議では、原木の規格、価格



燃料用原木の需給について協議

と納入方法について、室内と現地において説明が行われた。

同発電所では、本年3月から間伐材等(32円材)のほか一般木質バイオマス(24円材)の受入れが開始されている。

### 第6回理事会を開催

当組合は、平成28年度第6回理事会を3月16日に開催した。理事、監事10名により、28年度収支決算見込み、29年度事業計画等の議案について審議が行われた。

### 鹿児島県素材生産事業者視察団が来訪

鹿児島県の始良(あいら)地区素材生産事業協同組合の会員7名が3月17、18日、当組合に来訪し、共同販売事業、低コスト再造林等の取組みについて視察を行った。

18日には、㈱小笠原林業小笠原社長の案内により、八幡平市内のカラマツ伐採現場を視察し、高性能ハーベスタWODY60による作業に関心が集まっていた。

### 「信州四方山謝恩会」で鈴木理事長が講演

昨年8月に長野県松本市において行われた第1回「山の日」記念全国大会記録誌の刊行を記念して、3月18日、同市において「信州四方山(よもやま)謝恩会」が開催され、環境省環境事務次官小林正明氏及び当組合鈴木理事長による記念講演等が行われた。

鈴木理事長は「上高地の歴史と木材利用の新时代」をテーマに、上高地(長野県西部の山岳景勝地)における林業・木材産業の歴史と今後の木材利用の展望について講演し、山の木を使って地域を再生することの重要性を訴えた。

### 合法木材等供給事業者を認定

当組合は2月20日、次のとおり合法木材等供給事業者認定を行い、当組合認定事業者は109名となった。

- ・認定番号 素流協-115
- ・事業者名 高政工業(株)(北上市)

### 「皆伐施業ガイドライン」を策定しました

当組合は今般、組合員が皆伐施業を行う際の指針となる「皆伐施業ガイドライン」を策定した。

このガイドラインは、法令を順守し生態系や環境の保全に配慮した皆伐施業を行うことを目的として、ひむか維森の会（宮崎県）等の事例を参考に、若手組合員から寄せられた

### おすすめの本

#### 「山菜・野草の食いしん坊図鑑」



編著 松本則之  
出版社 農山漁村文化協会  
(定価 1,700円+税)  
タイトルのお通り著者が実際に調理、試食したおすすめの山菜・野草103種を掲載。気軽に作れるレシピ満載で、これからの季節にぴったりの1冊。

現場の意見を踏まえ策定したもので、

- ①伐採契約・準備②路網・土場開設
- ③伐採・造材・集運材④更新・後始末⑤健全な事業活動、の5項目から構成されている。

詳しい内容については、今後地区別組合員会議等において組合員の皆様にご説明し、取組みへのご理解とご協力をお願いする予定です。

### 主要木材の需給見通し (H29第2四半期～第3四半期)

林野庁は3月24日、平成28年度第4回木材需給会議を開催し、主要木材の需給見通し（平成29年第2四半期及び第3四半期）を策定した。見通しの要点は次のとおり（詳細は林野庁ウェブサイトに掲載されています）。

- (1)平成29年第2四半期（4～6月）の需給は、輸入丸太、合板及び構造用集成材は前年同期に比べ増加する一方、国産材丸太及び輸入製材品は、前年同期に比べ減少する見通し。
- (2)平成29年第3四半期（7～9月）

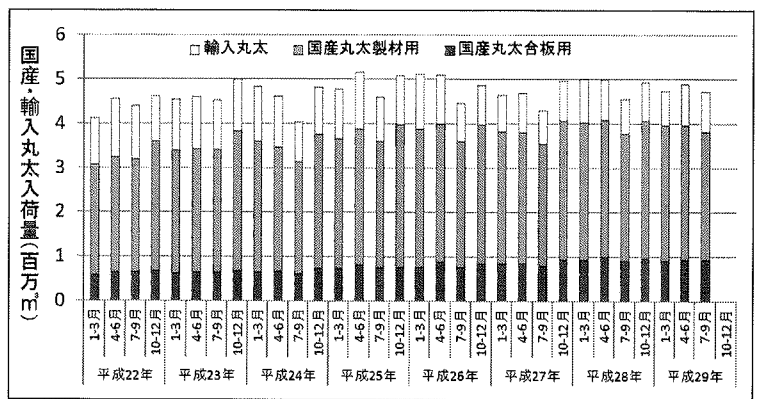


図 丸太入荷量の推移 (H29.1月以降は見通し)

の需給は、国産材丸太、輸入丸太及び合板は、前年同期に比べ増加する一方、輸入製材品及び構造用集成材は前年同期に比べ減少する見通し。

(3)民間シンクタンクによる住宅着工戸数の予測の平均は、平成28年度は96・2万戸、29年度は92・0万戸、30年度は93・2万戸となっている。29年度は貸家着工の減少、30年度は31年10月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要を見込んでいると思われる。

### 野焼き、たき火に注意

2月28日、釜石市箱崎町において約9haを焼く山火事が発生した（3月4日鎮火）。山火事多発期に入り、より一層の注意を払う必要がある。

林野火災の発生原因は野焼きが多多く、たき火、火入れと続く。「火入れ」とは森林や森林の周囲1kmの範囲にある原野、田畑等で雑草等を面的に焼却する行為で、市町村長の許可が必要である。枯れ草等を野外で焼却する「野焼き」を行う場合も、乾燥時や強風時には延焼に十分注意するようお願いします。

### お知らせ

第14回通常総会を次のとおり開催します。組合員の皆様の出席をお待ちしております。

【日時】 5月23日（火）

\* 通常総会 15時30分～

\* 懇親会 17時30分～

【場所】 ホテルメトロポリタン  
ニューウイング



# ちよつと気になる木の話

## 9

### 原木市場不要論に対して……

一時期、原木市場不要論を唱える人物がいたが、原木市場は不要なのかを考えてみたい。そもそも原木市場とは何かである。

原木市場は、木材需要拡大時に、細分化された丸太を求める専門製材業等と、丸太を高く売り、現金が欲しい山主・素材生産業の仲立ちをするものとして成立した。山主・素材生産業の売り手主導で成立したものと、製材業等の買い手主導で成立したものがあつた。どちらであつても全盛時はウインウインの関係があり、市売日当日は活況を呈したものである。

何故ウインウインだったかは簡単に言えば、互いに必要であり、互いにメリットがあつたからである。いわば需要が供給を格段に上回っていたからである。価格の乱高下はもちろなあつたが、競って購入していたため、予想単価を大きく超えることもあつた。もちろんこの時代は、山主や素材業者のトラックは小さく、膨大にある遠くの製材工場等に個別

に届けることは不可能だったことも要因である。

当時の一般材の平均単価を5万円と設定すれば、次のm単価の式が成り立つ。

5万円ー(市場樺積料1000円+市場手数料8%4000円+市場までの運賃1500円)÷4万3500円(山元丸太価格)となる。

現在はどうかである。一般の並材のスキと仮定すると、次のm単価の式が成り立つ。

1万3000円ー(樺積料1000円+手数料1040円+市場までの運賃1500円)÷9460円(山元丸太価格)となる。

当時の5万円は更に上がることもあつたが、現在の1万3000円は、ほぼ同じ価格となる違いはあるものの、工場着値は、市場からの運賃がかかる5万2000円と1万5000円となる。

変動の少ない現在の工場着値で、山元から直送すれば、1万5000円ー12000円÷1万3000円となる(山元の仕分け代金を無視した場合)。山元仕分けに1000円とつ

たとしても、1万2000円となる。現在の市場渡しと比較してみよう。

9460円対1万2000円で、直送方式の方が山元にお金が残ること(山元還元ができること)となる。

こうしたことをもって原木市場不要論を唱える人物が現れたと言える。

原木市場側としては、①必要な売れる丸太だけでなく、色んな丸太を売ってあげられる②市場は山側には現金で支払う換金能力があり、信用能力が高い③近くに買い手業者がいなくても、遠くの買い手業者を集められる④買い手の動向を伝えている、等々反論もある。

そこで、そもそも原木市場の成立を再度振り返ってみよう。

需要V供給が大事な点となる。多数の買い手によって、上振れの価格差が出ないといけないのである。今、活況を呈しているのは、広葉樹原木、年に数回しか出でない高齢級のスキ・ヒノキ、アカマツの大径木といった、買い手が多数で需要V供給の市場である。ちよつと違うが、スキ樺平製品市も「あつ」という間にセリ終了であるし、外材クリアー物も同様である。こうした樹種等を販売する原木市場では、売り主の山

主・素材生産業も製材業も未だにウインウインである。

とすれば、需要V供給の求められる丸太を集められれば、原木市場は永遠である。又は、山主への手取りを増やすため、樺積料や手数料を大幅に減額するものもあるが、人件費から見れば難しいかもしれない。現在、原木市場は、一般並材は径級・品質ごとに分けて、そのまま工場へ直送し、仲介料を減らしているところも多い。いわば、中間市場と原木市売の併設である。確かにこの方式も時代にマッチしていると思う。

今後の原木市場は、買い手の望む丸太のきめ細かな情報を製材工場だけでなく、設計士、家具・木工業者等から集めて、山元に発信することがなければ、最盛時の活況を再度取り戻すことはできないと思われる。原木市場不要論に対してはまちがいだと断言できるが、需要V供給が大原則である。原木市場がダラダラと日々を過ごしているのは、う〜んである。

それにしても、並材以外の優良材が、もつと用途を拡げて、高く取引して欲しいのは同じ夢である。外材クリアー物だつていつかなくなると思うが……。

平成 29 年 3 月 分 の 販 売 実 績

樹 種	合 板 用			そ の 他 製 材 用 等			計		
	当 月 出 荷 量 (m <sup>3</sup> )	前 月 比 (%)	前 年 同 月 比 (%)	当 月 出 荷 量 (m <sup>3</sup> )	前 月 比 (%)	前 年 同 月 比 (%)	当 月 出 荷 量 (m <sup>3</sup> )	前 月 比 (%)	前 年 同 月 比 (%)
ス ギ	12,552	97.7	183.7	8,450	115.2	135.8	21,002	104.1	160.9
カラマツ	2,474	101.3	87.5	409	255.1	18.6	2,883	110.7	57.4
アカマツ	2,421	62.6	176.1	196	60.5	71.3	2,616	62.4	158.7
その他針葉樹	0	*	0.0	0	*	*	0	*	0.0
広葉樹	0	*	*	35	429.6	*	35	429.6	*
合 計	17,446	91.1	156.9	9,089	116.2	104.6	26,536	98.3	133.9

樹 種	バ イ オ マ ス 用 素 材		
	当 月 出 荷 量 (t)	前 月 比 (%)	前 年 同 月 比 (%)
ス ギ	6,758	182.4	384.6
カラマツ	1,392	202.8	193.5
アカマツ	3,410	144.8	165.7
合 計	11,560	171.4	254.9

樹 種	今 年 度 累 計			
	合 板 用 (m <sup>3</sup> )	そ の 他 製 材 用 等 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	バ イ オ マ ス (t)
ス ギ	110,979	86,081	197,060	57,062
カラマツ	29,009	8,825	37,834	16,397
アカマツ	30,108	2,260	32,368	19,846
その他針葉樹	0	1,178	1,178	0
広 葉 樹	0	1,432	1,432	0
合 計	170,096	99,777	269,873	93,305
目 標 達 成 率 (%)	94.5	99.8	96.4	103.7
計 画 量	180,000	100,000	280,000	90,000

注) \*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【平成 29 年 3 月 の 需 給 動 向】

- スギは製材用 3m材の引き合いが強まっている。合板工場は増産体制を継続しており順調。
- カラマツは集成材工場の引き合いも強まり、原木が不足する状況が更に強まった。
- バイオマス用素材は、例年より雪融けが早く順調に出材され、原木在庫を確保している。

耳からウロコ

石単価はバタ角の始まり？

岩手の木材新聞を見ると、丸太の販売単価には、m<sup>3</sup>と石(こく)が併記されている。ということは、石単価取引の方がわかり易い人が読者にいるとの意味と考えられる。しかし、若い人にはそもそも石がわからないと思うので、少し解説してみたい。

尺貫法時代、体積の単位は1石≒10斗≒1000升≒10000合となる。今でも1斗缶、1升ます、1合どつくり等、石以外はなじみのある単位である。酒や米に使われるように、元々は容積の単位である。

1石と1m<sup>3</sup>の関係を表すと、1石≒10尺(3・03m)×1尺(0・303m)×1尺(0・303m)≒0・278m<sup>3</sup>となる。1m<sup>3</sup>≒3・3尺(11m)×3・3尺(11m)×3・3尺(11m)≒3・6石となる。石単価を3・6倍すれば、m<sup>3</sup>単価となる。

石であろうと、m<sup>3</sup>であろうと、現在の丸太の一般的計測方法は末口二乗法である。末口二乗法だと、縦×横×長さなので、角材の材積となる。ということとは、末口と元口が変わらなければ、丸太材積は過大となる。末落ちしてい

れば、いい感じかもしれない。大きく末落ちしている4m丸太を2mに分割すれば、材積は回復することになる。

そもそも末口二乗法は日本の針葉樹に合った独特のものであるが、検知・計算は易しいと言える。若い時、イチイガシの伐根を売ろうとしたら材積を出せと言われて、大きなドラム缶に水を入れ、あふれ出た水を量って材積を出したが、これが本当は正解である。でも、銘木市では、1玉で入札していた…。当然だよな。

さて、これは、フリツチ盤ならまだしも、丸太材積を正確には表していないが、この径級の丸太からこの寸法の製品を作ると決めて入札しているので、買い手側にも不利は無い。逆に作る製品サイズから適寸である丸太サイズを決めるので、丸太の径を14、16、18、22といったように幅で分別し、歩止りの悪い丸太径は単価を下げるので、損得は無いかもしれない。

丸身のついた角材は、末口二乗法からみれば製品歩止りが一番高いと言える。正角全盛時代からするとバタ角、押し角はなじみが薄くなった。

追記 バタ角は建築用語で10cm角程度で型枠の補強材とあり、丸身のある角ではなかった。改めて思い込みに気がついた。